

## 第3学年 地域創造学学習指導案

日 時 令和元年11月29日(金)

場 所 3年生教室

学 級 第3学年 15名

授業者 教諭 高橋 千尋・村上 勝博

### 1 単元名 「プロジェクト実現に向けて行動しよう」

#### 2 単元について

##### (1) 題材について

第3ステージの1年時には、住田町の自然をテーマに調べ、昨年度は産業をテーマに調べ学習を行い、自らの研究と比較して話したり、講師の方々の言葉を引用して話したりすることができるようになってきた。生徒は、昨年度までの調べ学習の過程で、住田町の「良さ」を再発見するだけでなく、課題があることも十分認識している。今年度は「人に学ぶ」をテーマに、住田町の課題を発見し、それを追究して解決に近づくための取り組みを考え実践していく。

本単元では、プロジェクト実現に向けて、日時、方法をより具体的な形として企画書に起こし、実践していくものである。また、実践を振り返り、他の実践の良さや改善すべき点などを指摘しあい、よりよいプロジェクトにするため、柔軟に意見を取り入れ、プロジェクトの手直しを行っていく。第4ステージの最終年に向けて、講師の方々の言葉をただ引用するだけでなく、その言葉自体の根拠となる資料を探したり、それを示して説明や反論したりする力を身に付け、その力を発揮するための素地を作りたい。

##### (2) 生徒について

生まれてから15年間、住田町内で生活しているという生徒が多く、保育園児の時から自然に触れながら生活している生徒がほとんどである。自然豊かな住田町の生活について満足している生徒が多数おり、将来も住田町に居住し続けたいと考えている生徒も複数名いる。

多くの生徒は、住田町が抱える課題について強く認識している。例えば、人口の減少やそれに伴う産業の衰退、観光客や移住者の増加を狙うがアピールするモノやスポットが圧倒的に少なく、PRの仕方が上手でないなど、生徒が考える課題は多い。しかし、その課題を解決していく一員は自分たちだという意識に欠ける発言も多く見受けられる。日常の生活から「主体的に」行動することが極めて苦手で、自らの人生、家族、生活している町について深く考え、自分の力で改善しようとする力が不足している。

4月の修学旅行で、日本の首都であり、世界屈指の大都市でもある東京に行ってきたからは、「住田町も東京みたいにすればよいのに」「都会の人が釣りや登山などのレジャーに沢山来てくれればよいのに」など、自分たちが住んでいる町を盛り上げようとする発言も聞かれるようになってきた。地元の公民館長さんから話を聞き、住田町の実態を調べていくほどに、危機感や行き詰まり感を感じ、その度に地域の方や同じグループの仲間からの助言を得て深めてきた。

普段から論理的に話したり、根拠に基づいて指摘したりということが苦手な生徒も多いが、大人が思いもつかないことを考える視点を持っている生徒も多いので、そうした考えを大切にしたい。

##### (3) 指導にあたって

プロジェクトプランについては発表を行い、実践が始まっている。2年時には、住田町の「産業・観光」の課題を調べ、改善のために活動をしてきた。改善案を形にして、実践する活動は今年度が初めて

である。プロジェクトの企画立案や理想としている活動と、実際にそれを改善していく経験を通して、住田町長をはじめとする住田町の大人たちの苦労や困難さについて実感させたい。また、自らの予想通り、あるいはそれ以上の結果を得られた場合にも、喜びや達成感を感じて終わりではなく、なぜ成功に結び付いたのかを考えることを通して、町政や自分自身との関わりから社会参画に関する資質能力の育成につなげたい。

実践についての中間発表を行う際には、現時点で班の中で困っていることや、問題だと考えていることの解決策を模索していく。その際、プロジェクトの趣旨や経過について、視覚的にも分かり易い資料を作成する。特に、プロジェクトの企画段階で考えていた予想と、実際の比較がしやすいよう、毎回の実践を記録していく。自らの問題点がほかの人にとってはヒントになったり、少し方法を変えるだけで良くなったりするという体験も味わわせたい。言葉が拙い生徒であっても、面白い発想をする級友の言葉を補ったり、噛み砕いたりしながら皆の考えを寄せ合って意見を交換できるようにしたい。

### 3 単元の目標と評価規準

#### (1) 単元の目標

	資質能力の分類	資質能力別の目標
社会的実践力	A 【地域理解】	○現在行っているプロジェクトを通して、未来の住田町を担う一員としての実感や責任を実感できる。
	B 【社会参画に関する資質能力】	○個々に行っているプロジェクトの問題点について、全員が協力して案を出し、改善に向けて取り組むことができる。
	C 【人間関係形成に関する資質能力】	○意見を聞かせたり、協力したりしながら、プロジェクトの改善に向けて取り組むことができる。
	D 【自律的活動に関する資質能力】	○プロジェクト成功の秘訣やその良さや面白さについて、他者に共感的に話すことで、客観的に自らの良さや面白さを再発見することができる。

#### (2) 評価規準

☆汎用的スキル ★態度・意欲・学びの価値

資質能力		評価規準
A	◎地域理解	【◎地】 ・自分たちの地域の歴史や文化、現状や抱えている課題、活用資源を理解し、ふるさとに愛着をもちながら町の発展・創造に関わる自分の役割等を捉える。
B 社会参画に関する 資質能力	1 ☆見通す力	【☆見】
	2 ☆多角的・多面的に考える力	【☆多】
	3 ☆提案・発信する力	【☆提】
	4 ★好奇心・探究心	【★好】
	5 ★困難を解決しようとする心	【★解】 ・失敗してもあきらめずに挑戦しようとする心。集団の仲間とともに困難な場面に直結しても粘り強く取り組み、最後までやり遂げようとする姿勢。
C 人間関係形成に 関わる資質能力	1 ☆伝え合う力	【☆伝】
	2 ☆協働する力	【☆協】 ・目標達成に向かって、他者と協力して活動できる力。議論し合ったり、集団活動を統制したりする力。
	3 ★他者受容	【★受】
D 自律的活動に 関する資質能力	1 ☆感じ取る力	【☆感】
	2 ☆創出する力	【☆創】 ・出会う「ひと・もの・こと」に触れて面白さや楽しさ、よさを感じ、自分なりに表現する力。新しい表現の仕方を生み出したりする力。
	3 ★自己肯定感	【★肯】

#### 4 単元の指導・評価計画（本時 第10時／全20時間）

月	プロセス	時	主な学習活動	関連する 教科・領域	評価項目 (評価方法)
9 ・ 10 ・ 11	実践・改善	9	・プロジェクトプランに則って実践の積み重ねをする。実践記録は毎時間記入し、ポートフォリオにする。	保体 C-2 ネット型球技 (作戦を考えよう)	・A◎ 地域理解 (ループリック) ・D2 ☆創出する力 (ループリック)
	改善	3 (本時)	・プロジェクトの中間発表会及び意見交換会。実践内容を吟味し、よりよいプロジェクトにする。	国語 B-3 (第6単元 話し合って提案をまとめてみよう)	・B2 ★困難を解決しようとする心 (見取り・振り返り) (ループリック)
12	実践・改善	8	・改善策を施し、プロジェクトの実践を行っていく。	道徳 A (社会参画・公共の精神)	・A◎ 地域理解 (ループリック) ・C2 ☆協働する力 (チェックリスト)

#### 5 本時の指導

##### (1) 目標

プロジェクトをより良いものにしていくため、お互いの意見を聞き合いながら、改善に向けて見直しを図ることができる。【B5 社会参画に関する資質能力 ★困難を解決しようとする心】

##### (2) 評価について

###### ○本時のループリック

パフォーマンス課題		・お互いの意見を聞き合いながら、改善に向けて見直しを図る。
みとる資質能力		・B5 社会参画に関する資質能力 ★困難を解決しようとする心
パフォーマンスの特徴	A	・プロジェクトをより良いものにしていくため、聞き合いから得た改善点を生かし、積極的に見直しを図っている。
	B	・プロジェクトをより良いものにしていくため、仲間の意見を取り入れたり、意見を発言したりし、改善に向けて見直しを図ろうとしている。
	C (支援の手立て)	・プロジェクトを届けたい相手の視点に立って、再度自分のプロジェクトを見直すよう指導をする。 ・具体的にアドバイスを生かせるように、いくつか一緒にやってみる。

(3) 展開

階	学習内容・学習活動	※指導上の留意点 ◆評価
<p>導入 5分</p>	<p>1 前時の学習の想起 手元のプロジェクト実施報告書を参考に、前時までの学習内容を想起する。</p> <p>2 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>学習課題 更なる地域貢献を目指し、プロジェクトの見直しをしよう！</p> </div>	<p>◆評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表の仕方について確認</li> <li>・事前に貼った付箋を確認</li> <li style="padding-left: 20px;">「良い」「独自性がある」・・・黄色の付箋</li> <li style="padding-left: 20px;">「疑問」「改善できる」・・・青色の付箋</li> </ul>
<p>展開 35分</p>	<p>3 プロジェクトプランと毎時間の反省用紙をもとに発表。貼ってある付箋や発表を聞いて改善の方向性を班内で揉む。</p> <p>4 班内で解決しかねているものについて、皆で考える。 グループ → 全体 → グループ</p> <p>5 次回以降の、プロジェクト実践活動の方針・見通しを立てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・4人もしくは3人の班で行う。</li> <li>・「うまくいったこと」「うまくいかなかったこと」について理由を探る。</li> <li>・自分や他の人のプロジェクトに参考になりそうな実践があるかどうかという視点で聞く。</li> <li>・事前の付箋の量や内容から、特に改善する必要性がありそうなプロジェクトを取り上げ、解決に向けて、改善案を提案する。</li> <li>・アドバイスと共に、取り入れたい実践方法や考え方などを見聞きするよう意識させる。</li> <li>・アドバイスをされる方も、根拠を示すなど感情論にならないよう気をつける。</li> <li>・次時からすぐに活動できるように計画を立てる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価</p> <p>プロジェクトをより良いものにしていくため、仲間の意見を取り入れたり、意見を発言したりし、改善に向けて見直しを図ろうとしている。</p> </div>
<p>まとめ 10分</p>	<p>6 まとめと振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本時のまとめと振り返りを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次時からのプロジェクトへの期待感を持たせながら終えたい。</li> </ul>